芙蓉

vol.53

2016.7月 発行

社会福祉法人 芙蓉会

〒417-0001 静岡県富士市今泉2220番地
TEL〈0545〉52-0402　FAX〈0545〉55-1119
http://www.fuyoukai.org

児童養護施設	ひまわり園	TEL0545-52-0402
地域小規模児童養護施設	ひろみ	TEL0545-22-1281
乳児院	恩賜記念みどり園	TEL0545-53-5665
特別養護老人ホーム	みぎわ園	TEL0545-55-1800
ショートステイ	みぎわ園	TEL0545-55-1877
通所介護	デイサービスセンターみぎわ園	TEL0545-55-1800
通所介護	ふようデイサービスセンター	TEL0545-52-1397
居宅介護支援事業	ふよう居宅介護支援事業所	TEL0545-52-5500
地域包括支援センター	富士市吉原西部地域包括支援センター	TEL0545-30-8324
在宅介護支援センター	みぎわ園	TEL0545-55-1811
複合型サービス	みぎわの里	TEL0545-30-7952

公分母

「愛は屋上の烏（からす）に及ぶ」

社会福祉法人芙蓉会監事　勝又 長見

これは「その人を愛するあまり、愛する人の持ち物は勿論、家の屋根にいる〈からす〉までも愛するようになること」の意味です。反対は「坊主憎けりゃ袈裟までも憎い」です。

芙蓉会の法人理念「自分を愛するように隣人を愛しなさい」を拡大解釈した内容のことわざです。自分はこの言葉を胸に、日々の生活で実現させようと努力していますが、悲しいかな、現実は自己の利害感情や我欲が先行して、不満や憎悪が渦巻く度量の狭さを痛感しています。利己主義（自分だけの利益・幸福を求めて他人の立場を全く考えない態度）から利他主義（他人の幸福を願うこと）へと成長できる日を夢見て穏和な心で人様に接するように心掛けていますが、なかなか実現は大変なことです。

創立113年の栄光の歴史を誇る芙蓉会は、福祉関係では他の追従を許さない先駆者的存在であり、今は福祉の正道を堅実に歩んでいます。正に「衆心一致、城を成す」の体制が構築されつつあることを、毎年の監査の度に実感しています。

家内の祖父が先代の理事長「戸巻俊一さん」のことを「神様みたいに立派な人だ」と、尊敬していたことを、監事受諾後に家内から聞きました。私利私欲にとらわれず「自分を愛するように隣人を愛しなさい」を実践した人と祖父は言っていたそうです。

「実語は天に登る橋なり。妄語は地獄に入る道」を人生の指針として、相手の心を忖度（そんたく）しながら毎日を送っています。相手に気付かれずさりげなく気遣い、自分の思い遣りが役立っているのは格別です。

福祉の原点は、人との良質な心身の触れ合いです。触れ合い＝愛が触れあう＝には、笑顔と相手を想う優しさです。自己の成長のためにも、笑顔を売る笑売に心掛ければ、良い人間関係も創れますし、信頼にも繋がります。笑売！笑売！

歩いたあとに一輪の花を咲かせたい。

注：実語は真実の語、行動が本心からの言葉に応じていること。
　　妄語は真心がない偽りの心からの語。嘘のこと。

＊みぎわ園＊

春から初夏にかけての出来事です。

4月にはひろみ公園の桜を観に、入居者皆様で出かけました。桜を背景に「はい。チーズ。」皆様とても良い表情を見せてくれました。

6月には、たこ焼やお好み焼きを自分達で作って召し上がられています。自分で作った物は美味しさ倍増でいくらでも食べられそうです。足りなくなっちゃいます。

これからも様々なイベントで入居者様と楽しいひと時を過ごしたいと思います。

＊ふようデイサービスセンター＊

今回はふようデイサービスセンターで催されましたボランティア様による演奏会やバラ園見学での皆様のご様子をご案内したいと思います。

『仮装によるおもしろ演奏会』

『三味線・尺八・太鼓ボランティア様による生演奏会』

『バラ園見学』

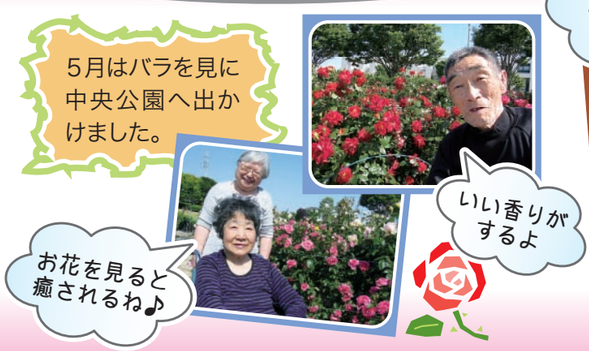
＊みぎわの里＊

4月にいちご狩りに行ってきました。ビニールハウスの中は幸せいっぱいでした。

5月にバラを見に行ってきました。情熱的な真っ赤なバラと、しとやかなピンクのバラが咲き誇っていました。また、情熱的なご利用者、しとやかなご利用者とバラとのコラボレーションが見事でした。

＊デイサービスセンターみぎわ園＊

5月はバラを見に中央公園へ出かけました。



日々手作業では季節の壁飾りを作ったり、体操も頑張っています。

＊ひまわり園＊

大地

今年もバーベキューに卒園生や退職した職員が遊びにきてくれ、お喋りを楽しみました。雨が心配でしたが晴天となり、山の緑や空の青がとても綺麗でした。皆で山に登り、壮大な景色を楽しみました。

銀河

行事でバッティングセンターに行きました。球を打つのが得意な子も苦手な子も夢中になりながら楽しむことが出来ました。

けやき

休日に仲良くオルガンを弾いて楽しく過ごしました。とても上手な演奏を聞かせてくれました。

かえで

今年のGWは晴天の中、白尾山公園に行ってきました。幼児さんは滑り台、小学生は池のザリガニを夢中になって釣っていました。時間が足りないと感じる程、楽しむことが出来ました。

りんどう

りんどうでは毎年恒例丸火でBBQをしました。アスレチックでは、笑ったり怖さのあまり泣いたりと忙しかった子どもたちです。ズボンに穴があくまで【ありじごく】も楽しみました。

さくら

今日は調理実習。年長の男の子がはりきって配膳のお手伝いをしてくれました。本児が炒めたベーコンをレタスの上にのせ、ベーコンサラダが完成しました。

原田幼稚園に通っている子どもたちの自慢のお弁当です。子どもも職員も毎日、お弁当をあけるのが楽しみです。おいしいお弁当を作ってくださりありがとうございます。

＊みどり園＊

3月 園外保育

子どもたちは、養育担当者と一緒に電車やバス等に乗って、少人数のグループごとにお出かけを楽しみました。
普段、味わうことのできない驚きとワクワク体験をたくさんしてきました。

「日本平動物園」

「富士宮イオン」

「アピタ」

4月 お楽しみ会

イースターにちなみ、紙粘土で出来た白い卵に色つけたり、シールを貼って可愛らしい卵を作りました。
お菓子や子ども達が作った卵を1階のプレイルームに隠し、宝探しを楽しみました。

4月 幼稚園 入園おめでとう

4月から幼稚園に通いはじめました。最初はドキドキ緊張したけどお友だちもたくさん出来ました。
みどり園で、子ども達と一緒にお祝いのケーキを作りました。

5月 こどもの日

お楽しみ会では“鯉のぼり作り”を楽しみ、園庭でたくさん遊びました。

＊ひろみ＊

保育士が早起きして作った運動会のお弁当

全国的に施設の小規模化が進められている中、地域小規模児童養護施設（グループホーム）の食事や食育について注目されているようです。ひろみでは保育士や指導員が買い物から調理まで全て行っております。県内ではひろみだけです。当然、育ち盛りの子ども達への栄養を考えて献立を作り、美味しく調理しなければなりません。
職員は日々奮闘する中、子どもからの「美味しいね」という言葉がとても励みになっています。

平成27年度　社会福祉法人芙蓉会　事業報告

法人本部

法人理念「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」の下、当法人は112年の歴史と共に地域に愛され、民間社会福祉としての活動と役割を果たすべく、社会福祉支援を要する人々への相談・援助・支援、地域福祉活動、社会貢献等々に重点をおきながら事業を推進いたしました。

平成27年度は、社会福祉法人芙蓉会を理解していただくために、地域社会との信頼関係を構築し更なる質の向上とガバナンスを高めていくことが重要と考え、法人理念の下、透明性（情報公開）の積極的な取り組みを推進し地域社会の信頼性を一層深めるよう努力いたしました。

また、マイナンバー制度（平成27年10月：個人番号通知、平成28年1月：個人番号利用開始）に向けた安全管理体制、情報漏洩防止策等を進め、各種保険等の法人一本化を図ることによる経費削減に努めました。

児童養護施設　ひまわり園

平成26年度に全国の児童相談所に寄せられた虐待相談件数は88,931件で、年々増加傾向にあります。児童人口が減少傾向にある中、この実態は大変深刻な状況であるといわざるを得ません。特にアタッチメントが重要な乳幼児期からの虐待は死に直結するリスクが高く、同時に人の成長、発達に多大な影響を及ぼします。あらゆる事情で親子分離を強いられた子どもたちが人との信頼関係を構築して行くためには非常に長い時間を要します。ひまわり園でも職員は日夜時間を惜しまず子どもたちの養育に力を注いでいます。しかし、中にはアタッチメント形成がうまくできず苦労することもあり、また、子ども間のトラブルなど日々様々な問題に追われることも少なくありません。

平成27年度は、児童72名（男子34名、女子38名）でスタートしました。年度内の新規入所は8名（男子5名、女子3名）で、そのうち6名（75.0%）が被虐待経験のある子どもです。また、退所した児童は13名（男子6名、女子7名）で、その内訳は、家庭引き取り6名、高校や専門学校を卒業して自立した児童4名、施設の変更3名（児童自立支援施設、県外の保護者の居住地の児童養護施設、障害者支援施設）です。

児童自立支援施設に措置変更となる事例が発生したことは大変残念なことで、様々な課題を背景にした子どもの問題行動への対応に苦慮しました。個々のケースにおいて、子どもの問題、家族の問題、職員の関わり方の問題など、取り組まなければならない事案が山積しており、今後の更なる努力が求められています。一方で、家族調整が良い方向に向かい家族再統合が実現したケースが増え、努力の成果も見えました。一時帰省や面会だけではなく、週末や連休を利用した帰宅訓練や家庭訪問を実施し、より家庭との関係を深めるよう努めました。

また、27年度は高校を卒業した後に将来の目標に向け進学を希望した児童が2名おり、それぞれ希望の短大に進学することができました。近年は「こどもの貧困対策」の一環で、児童養護施設入所児童や里親委託児童への進学支援も少しずつではありますが整備されてきており、子どもの希望が叶うように継続的な支援をしていきたいと考えます。入所児童の家庭の7割弱が母子家庭であり、さらにその保護者の多くは、圧倒的に中卒が多いというまさに現代の子どもの貧困問題にさらされている現状から、貧困の連鎖を断ちきるために高等教育を受けることができる環境の整備は非常に重要な課題であると考えます。

恩賜記念みどり園

平成27年度は暫定定員24名で事業を実施しました。年間の充足率は、定員換算で73.9%でした。受け入れた乳幼児の内訳は措置入所9名（内7名は一時保護からの切替）、一時保護18名、富士市のショートステイ9名（保護者1名別）計27名。措置入所の2名の新生児と、富士市のショートステイ対象児の一部を除き、入所依頼当日の受け入れを希望する緊急一時保護のケースが増加しています。緊急一時保護時の子どもに関する情報は、受け入れ職員の聞き取りにかかっています。一時保護対象児やショートステイ対象児は児童相談所やこども家庭課の担当者が引率同行するので、必要な情報が十分得られない場合があり、児童相談所の担当者が折り返して保護者の聞き取りに行くことも少なくないのが現状ですので、受け入れる側としてのリスクは計り知れないものがあります。子どもたちは何も状況が理解できずに保護者と離れ、分離不安は計り知れない状況なのですが、受け入れ時に親を求めて大泣きをする子どもが減少しています。そんな子どもたちを「泣ける＝自己主張ができる」子どもに育て直すこと現在の乳児院に課せられた役割であると考え、職員やみどり園に力を貸してくださる方々の協力を得て、平成27年度を無事に乗り切ることができました。退所児童は14名、家庭復帰率は28.6%、里親委託率は21.4%、児童養護施設への措置変更率は35.7%、残りの14.3%は障害児施設やファミリーホームへ措置変更でした。措置児童の家庭復帰率は減少傾向にあります。（一時保護解除児童の家庭復帰率は90%）運営面では、「率先垂範」や「後ろ姿の教育」をかねてより推奨してきましたが、職員間の意思疎通をより強固なものにするために、平成27年度は園内研修として、副主任以上の指導担当職員を対象にビジネスアサーションの研修会を開催しました。

また、静岡県からの要請で、「愛着形成プログラムによる子育て支援事業」を受託しました。これは乳児院の持つ機能を、より地域のために活用するという主旨のもと、乳児院の職員と共に学ぶ研修会を開催し、延べ32名の地域からの参加者を得て、乳幼児の愛着形成について共に学ぶ機会を持つことができました。アンケートでは次回の開催を希望される声を多数いただきましたので、今後も継続できる方法を検討していきます。当園の最大の課題である看護師の充足の問題ですが、平成27年度中に常勤の看護師1名と非常勤の看護師4名を採用することができました。常勤職員の採用ができるように募集を継続しています。

地域小規模児童養護施設ひろみ

平成27年度、「ひろみ」は地域小規模児童養護施設の指定を受け（承認年月日：平成27年4月1日）、本体施設の支援のもと、24時間体制で入所児童の安全・安心の確保に努めました。

平成27年度は、小学生1名、中学生1名、高校生2名でのスタートとなりました。ひろみでは地域の中での生活体験を基盤に、家庭的な環境の中で、より個別的な関わりを持てるように努めました。高齢児が多い為、出来る限り子どもが日常生活において主体的に考え、取り組むことが出来るよう心掛けて支援しました。

小学生女子の入所が2名ありましたので、ひろみでの生活や学校生活を落ち着いて送れるように、児童相談所や学校と連携し、支援してきました。その内1名は9月に家庭引取りになり退所となりました。昨年度は、高校受験をする児童がおりましたので、本人が希望する進学が実現できるように努めました。学力的に困難がありましたが、中学校や児童相談所による協力により、何とか市内への高校に進学することが出来ました。

地域との関係を大切にすることを心がけました。地域活動への主体的な参加をすると共に、日常の中での地域住民の方々との交流を大切することを意識しました。地域の防災訓練やバーベキュー、運動会等の行事へ主体的に参加、協力することで、町内会の方々から感謝の言葉を頂けることがありました。日々の交流の中で、少しずつではありますが、地域の方々に受け入れられ、施設への理解が深まってきていることを実感出来ております。

児童福祉施設の小規模化、地域化が求められている中で、他施設の見学や資料提供などの依頼がありましたので、積極的に受け入れていきました。栃木県で実施されました第30回関東ブロック児童養護施設職員研修会では、ひろみ職員が意見発表をさせて頂きました。そこでは現場職員が実際に感じている地域小規模施設の現状や課題、ひろみが培ってきた実践的な知識を発信することが出来ました。

特別養護老人ホームみぎわ園

H27年度介護保険の改訂−2.27%は、全体の収支を通して特養、ショートスティの稼働の高率等により影響の出た在宅系介護部門（デイサービス部門）のマイナス改定を凌いだ結果で推移した内容でした。只、社会福祉法人の内部留保問題等は、結果社会福祉法の経過65年での改革がこの4月1日付けで改正され、地域での公益的取組の責務とする規定であり社会福祉サービスで社会還元することを義務付けた内容とガバナンス（組織統治）を強化する等、公益性の高い組織運営を期待されるとして法改正がなされました。又介護福祉人材確保については、育成、処遇の改善等を充実しこれらも改革にあてるとした事であります。人材育成については、昨年から始めた新人教育の一つとする1年間を通してプリセプター研修、入居者の重度化を看ての介護職サイドでの業務スキルアップとしての特定介護従事者2号研修、認知症実践者指導研修等、職員の介護技術と介護意識の向上に努めました。変化著しい特に通所介護（デイサービス）部門の特色と特異性を持って過当競争が変化する通所介護サービス業界の時代性を鑑みて、この1年多職種協働でプロジェクト委員会を立上げ直接担当者と議論を重ねて、一つの方向と特色とする「サービスの柱」を見出し進める事としました。

昨年2月開所の看護小規模多機能型施設「みぎわの里」については、富士市2つ目の施設開所で、また県下でも始めたばかりでの施設内容でもあり思うような稼働が難しく、手さぐり運用の1年でした。地域性と担当者のスキル研修に労した1年でもありました。

又開所1年経過の中で、市行政の指導もあって第三者評価を受審する事となり、11月より準備を進め、運営に未熟な所がある中での受審となり年明け2月から3月にかけて第三者の方々のご足労を戴き47項目の多岐に亘る審査を実施しました。内容も新たに国が提示した項目で、理解の難しさもある中今年度の準備を進めるとしました。4月から特養内1階南ユニット（20床）の一部多床室を含む施設を「地域密着型小規模特養」として新たに認可を受け稼働をしています。国が整備を進める特養施設基準の一環で、以後は富士市が監理指導を行うとされました。施設基準の変更に伴う整備等を進める上での問題点を静岡県担当、富士市行政との協議を重ねて、従来の運営基準と大きく変更の伴わないとする形で結論を得て懸念した会計区分、人員配置、加算請求業務上の問題を解決して現在に至っています。

全体として、国の施策に振り回されながらも職員の努力と知恵を以て難局を凌ぎつつ進められた1年で、介護保険改定2年目に向かい下地を整えた年度でありました。

平成27年度 社会福祉法人芙蓉会　決算報告

資金収支計算書

自　平成27年4月1日　至　平成28年3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算（A）	決算（B）	差異（A）−（B）
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	672,190,000	667,945,439	4,244,561
		児童福祉事業収入	458,598,000	458,119,224	478,776
		借入金利息補助金収入	183,000	181,184	1,816
		経常経費寄附金収入	5,028,000	5,236,467	△ 208,467
		受取利息配当金収入	1,124,000	1,154,189	△ 30,189
		その他の収入	10,066,000	9,705,302	360,698
		事業活動収入計（1）	1,147,189,000	1,142,341,805	4,847,195
	支出	人件費支出	744,772,000	745,157,327	△ 385,327
		事業費支出	172,297,000	166,559,119	5,737,881
		事務費支出	113,935,000	106,847,108	7,087,892
		利用者負担軽減額	1,289,000	1,242,051	46,949
		支払利息支出	3,748,000	3,746,509	1,491
		その他の支出	6,413,000	6,978,578	△ 565,578
		事業活動支出計（2）	1,042,454,000	1,030,530,692	11,923,308
	事業活動資金収支差額（3）＝（1）−（2）		104,735,000	111,811,113	△ 7,076,113
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	12,775,000	13,025,000	△ 250,000
		施設整備等収入計（4）	12,775,000	13,025,000	△ 250,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	42,012,000	42,138,000	△ 126,000
		固定資産取得支出	31,968,000	31,918,884	49,116
		施設整備等支出計（5）	73,980,000	74,056,884	△ 76,884
	施設整備等資金収支差額（6）＝（4）−（5）		△ 61,205,000	△ 61,031,884	△ 173,116
その他の活動による収支	収入	長期貸付金回収収入	0	270,000	△ 270,000
		積立資産取崩収入	2,983,000	2,680,902	302,098
		拠点区分間繰入金収入	11,000,000	0	11,000,000
		その他の活動収入計（7）	13,983,000	2,950,902	11,032,098
	支出	長期貸付金支出	0	220,000	△ 220,000
		積立資産支出	28,142,000	27,355,014	786,986
		拠点区分間繰入金支出	11,000,000	0	11,000,000
		その他の活動支出計（8）	39,142,000	27,575,014	11,566,986
	その他の活動資金収支差額（9）＝（7）−（8）		△ 25,159,000	△ 24,624,112	534,888
予備費支出（10）			1,040,000		220,000
			△ 820,000		0
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）−（10）			18,151,000	26,155,117	△ 8,004,117
前期末支払資金残高（12）			259,282,209	259,282,209	0
当期末支払資金残高（11）＋（12）			277,433,209	285,437,326	△ 8,004,117

（注）　予備費支出△820,000円は下記の科目に充当し使用しました。
「事業費支出」
給食費支出　△420,000円、被服費支出　△60,000円、日用品費支出　△30,000円、
本人支給金支出　△20,000円、消耗器具備品費支出　△60,000円、教育指導費支出　△100,000円
「事務費支出」
手数料支出　△30,000円
「積立資産支出」
施設等積立資産支出　△100,000円

貸借対照表

自　平成27年4月1日　至　平成28年3月31日

（単位：円）

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	318,035,505	299,097,753	18,937,752	流動負債	121,558,179	129,744,544	△ 8,186,365
現金預金	219,244,949	190,706,500	28,538,449	事業未払金	23,788,365	25,538,453	△ 1,750,088
事業未収金	94,478,440	95,270,676	△ 792,236	その他の未払金	0	5,400,000	△ 5,400,000
未収金	520,521	588,405	△ 67,884	1年以内返済予定設備資金借入金	33,988,000	42,138,000	△ 8,150,000
未収補助金	2,870,796	11,339,194	△ 8,468,398	未払費用	8,557,293	8,143,671	413,622
貯蔵品	15,000	0	15,000	預り金	47,398	639,890	△ 592,492
立替金	700,410	197,678	502,732	職員預り金	205,123	93,530	111,593
前払金	205,389	234,800	△ 29,411	賞与引当金	54,972,000	47,791,000	7,181,000
前払費用	0	760,500	△ 760,500	固定負債	326,409,608	359,178,392	△ 32,768,784
固定資産	2,354,058,884	2,379,965,941	△ 25,907,057	設備資金借入金	311,952,000	345,940,000	△ 33,988,000
基本財産	1,863,992,454	1,908,578,702	△ 44,586,248	退職給付引当金	14,457,608	13,238,392	1,219,216
土地	457,412,898	457,412,898	0	負債の部合計	447,967,787	488,922,936	△ 40,955,149
建物	1,401,595,971	1,446,182,219	△ 44,586,248	純資産の部			
普通預金	4,983,585	4,983,585	0	基本金	345,258,921	345,258,921	0
その他の固定資産	490,066,430	471,387,239	18,679,191	国庫補助金等特別積立金	1,021,703,806	1,053,848,676	△ 32,144,870
土地	17,531,137	17,531,137	0	その他の積立金	381,515,208	357,879,756	23,635,452
建物	6,992,047	7,618,299	△ 626,252	人件費積立金	118,500,000	115,535,022	2,964,978
造作	9,715,850	10,393,887	△ 678,037	施設整備等積立金	113,804,960	97,010,058	16,794,902
構築物	20,695,470	23,640,565	△ 2,945,095	施設運営費積立金	102,521,888	98,950,303	3,571,585
機械及び装置	4	4	0	植松茂子奨学積立金	45,688,360	45,384,373	303,987
車輌運搬具	1,114,295	2,586,606	△ 1,472,311	記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	0
器具及び備品	31,505,805	31,990,268	△ 484,463	次期繰越活動増減差額	475,648,667	433,153,405	42,495,262
ソフトウェア	672,750	199,885	472,865	（うち当期活動増減差額）	66,130,714	49,759,349	16,371,365
投資有価証券	50,000	50,000	0				
長期貸付金	4,110,000	4,160,000	△ 50,000				
退職給付引当資産	14,457,608	13,238,392	1,219,216				
人件費積立資産	118,500,000	115,535,022	2,964,978				
施設整備等積立資産	113,804,960	97,010,058	16,794,902				
施設運営費積立資産	102,521,888	98,950,303	3,571,585				
植松茂子奨学積立資産	45,688,360	45,384,373	303,987				
記念事業積立資産	1,000,000	1,000,000	0				
差入保証金	150,000	150,000	0				
長期前払費用	1,556,256	1,948,440	△ 392,184	純資産の部合計	2,224,126,602	2,190,140,758	33,985,844
資産の部合計	2,672,094,389	2,679,063,694	△ 6,969,305	負債及び純資産の部合計	2,672,094,389	2,679,063,694	△ 6,969,305

事業活動計算書

自　平成27年4月1日　至　平成28年3月31日

（単位：円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	667,945,439	610,185,194	57,760,245
		児童福祉事業収益	458,119,224	425,138,296	32,980,928
		経常経費寄附金収益	5,236,467	3,483,789	1,752,678
		サービス活動収益計（1）	1,131,301,130	1,038,807,279	92,493,851
	費用	人件費	754,078,051	686,953,004	67,125,047
		事業費	166,951,303	178,894,904	△ 11,943,601
		事務費	106,847,108	117,783,200	△ 10,936,092
		利用者負担軽減額	1,242,051	900,812	341,239
		減価償却費	85,345,700	74,980,729	10,364,971
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 51,144,870	△ 50,209,630	△ 935,240
		徴収不能額	0	18,451	△ 18,451
		サービス活動費用計（2）	1,063,319,343	1,009,321,470	53,997,873
	サービス活動増減差額（3）＝（1）−（2）		67,981,787	29,485,809	38,495,978
サービス活動外増減の部	収益	借入金利息補助金収益	181,184	229,050	△ 47,866
		受取利息配当金収益	1,154,189	1,224,052	△ 69,863
		その他のサービス活動外収益	9,705,302	12,977,698	△ 3,272,396
		サービス活動外収益計（4）	11,040,675	14,430,800	△ 3,390,125
	費用	支払利息	3,746,509	3,992,223	△ 245,714
		その他のサービス活動外費用	6,978,578	6,014,676	963,902
		サービス活動外費用計（5）	10,725,087	10,006,899	718,188
	サービス活動外増減差額（6）＝（4）−（5）		315,588	4,423,901	△ 4,108,313
	経常増減差額（7）＝（3）＋（6）		68,297,375	33,909,710	34,387,665
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	13,025,000	41,240,000	△ 28,215,000
		その他の特別収益	3,808,356	277,725	3,530,631
		特別収益計（8）	16,833,356	41,517,725	△ 24,684,369
	費用	固定資産売却損・処分損	17	438,086	△ 438,069
		国庫補助金等特別積立金積立額	9,500,000	25,230,000	△ 15,730,000
		その他の特別損失	9,500,000	0	9,500,000
		特別費用計（9）	19,000,017	25,668,086	△ 6,668,069
	特別増減差額（10）＝（8）−（9）		△ 2,166,661	15,849,639	△ 18,016,300
当期活動増減差額（11）＝（7）＋（10）			66,130,714	49,759,349	16,371,365
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（12）		433,153,405	400,856,058	32,297,347
	当期末繰越活動増減差額（13）＝（11）＋（12）		499,284,119	450,615,407	48,668,712
	基本金取崩額（14）		0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）		1,690,962	793,709	897,253
	その他の積立金積立額（16）		25,326,414	18,255,711	7,070,703
	次期繰越活動増減差額（17）＝（13）＋（14）＋（15）−（16）		475,648,667	433,153,405	42,495,262

財産目録

平成28年3月31日

（単位：円）

資産・負債の内訳		金額
Ⅰ 資産の部		
1.流動資産		
現金預金		
現金	現金手許有高	432,077
普通預金	富士信用金庫　今泉北支店	78,617,429
	静岡銀行　吉原北支店	34,616,333
	富士市農協協同組合　大渕支店	5,621
	富士宮信用金庫　国久保支店	68,489
定期積金	富士信用金庫　今泉北支店	65,200,000
	静岡銀行　吉原北支店	40,405,000
事業未収金	2.3月分介護保険報酬収入（9割）他	94,478,440
未収金	職員食費他	520,521
未収補助金	利用者負担軽減補助金他	2,870,796
貯蔵品	図書カード　百貨店券	15,000
立替金	自動車免許取得費用他	700,410
前払金	国債償還他	205,389
流動資産合計		318,035,505
2．固定資産		
(1) 基本財産		
土地	所在番地　今泉字小松2103番　他81筆	457,412,898
建物	所在　今泉字源太坂2220他7棟	1,401,595,971
普通預金	富士信用金庫　今泉北支店	4,983,585
基本財産合計		1,863,992,454
(2) その他の固定資産		
土地	所在地番　今泉字源太坂2196番1他18筆	17,531,137
建物	所在　今泉字源太坂2210	6,992,047
造作	地域包括支援センター改修工事	9,715,850
構築物	遊具10基他	20,695,470
機械及び装置	自家用発電機3基他	4
車輌運搬具	車輌NO沼津22さ2931他20台	1,114,295
器具及び備品	パソコン他	31,505,805
ソフトウエア	介護ソフト他	672,750
投資有価証券	富士信用金庫出資証券	50,000
長期貸付金		4,110,000
退職給付引当資産		14,457,608
人件費積立資産		118,500,000
施設整備等積立資産		113,804,960
施設運営費積立資産		102,521,888
植松茂子奨学資金積立資産		45,688,360
記念事業積立資産		1,000,000
差入保証金	セコム他	150,000
長期前払費用	火災保険料	1,556,256
その他の固定資産合計		490,066,430
固定資産合計		2,354,058,884
資産合計		2,672,094,389
Ⅱ 負債の部		
1．流動負債		
事業未払金	3月分業者支払分他	23,788,365
1年以内返済予定設備資金借入金	福祉医療機構他	33,988,000
未払費用	非常勤職員給与3月分他	8,557,293
預り金	みぎわ園利用者医療費他	47,398
職員預り金		205,123
賞与引当金		54,972,000
流動負債合計		121,558,179
2．固定負債		
設備資金借入金		311,952,000
退職給付引当金		14,457,608
固定負債合計		326,409,608
負債合計		447,967,787
差引純資産		2,224,126,602

※平成27年度事業・決算報告は、紙面の都合上縮小して掲載しています。
事業・決算報告は、当法人ホームページでも閲覧できますのでご覧下さい。

ありがとう

当法人にたくさんのご寄付をいただきありがとうございました。
お礼を申し上げここに紹介させていただきます。（敬称略）

●浅野龍雄●青山百合子●あいおいニッセイ同和損保●㈱安納スウィーツファーム●あざみの会　野上由紀子●赤澤佳子
●㈱ウラタモータース●小穴菅登●沖本洋子･富夫●川島泰彦●金子圭介●㈱劇団飛行船●小林栄子●齋藤健次･由果里
●サントリービバレッジサービス㈱●篠原桂子●渋谷美友貴●志藤好彦●親切会中部支部●ジヤトコ㈱総務部●鈴木英之
●鈴木重勝●スーパー銭湯　鷹の湯●㈲ダスカジャパンクァウテモック●地方紙正月連合企画係　田辺敏輝●伝心寺●遠間道也
●戸巻ひさ子●戸巻紀美子●永井真理子●内藤順敬●内藤恵美子●野村幹三郎●花みずき法律事務所　谷川樹史●平林さち子
●富士市社会福祉協議会●富士地区学校生活協同組合●古村富士子●堀川ちと子●マルハン鷹岡店●美濃部みどり
●緑ヶ丘町内会代表　松本芳泰●妙心寺●林生寺　（H28.2.26～6.10）

新入職員紹介

みぎわ園

片岡 祐太

関　祥子

佐野 優美香

栗山 莉奈

黒田 舞子

みぎわの里

鈴木 千恵美

ふようデイ

宮下　恵

吉原西部包括

森 奈緒美

みどり園

齋藤 琴美

田内 千栄美

太田川 佳奈

石川 華菜美

笠井 知枝

市野 真里子

味元 弓佳

ひまわり園

和井内 歩

飯塚 和花菜

桑原 優太

岡 ともみ

後援会からのお知らせ

多くの方々から後援会費を送金いただき、心より感謝を申し上げます。また新規のご入会も随時受けつけております。子どもたちのため、おとしよりのために、あたたかいご支援いただけますよう、ご入会をお願いいたします。

会費の振込先は下記の口座にて承ります。

年間会費 個人会費　1口 1,000円
会　社 団体会員　1口 3,000円

振込先（郵便局振替口座）
・口座番号 **00880-0-2423**　・口座名称 **芙蓉会後援会**

何口でも結構です

他の金融機関からのお振込を受ける際にご指定いただく口座情報は、右記のとおりとなります。

銀行名　**ゆうちょ銀行**
店　名　**〇八九店**
預金種目　**当座**
口座番号　**0002423**
口座名義　**フヨウカイコウエンカイ**

苜安箱（H28.4月～6月）

●みどり園

※今回、他の施設はありませんでした。

内容：職員個人の夜勤中の業務に対する姿勢や業務内容について指導要望がありました。

回答（対策）：当該職員に事実確認を行い、改善指導を行うと共に始末書の提出を求めました。また、全体会議の席で、経過報告を行うと共に、誤った業務内容を真似しないよう職員全体に注意喚起を行いました。

寄付のお願い

芙蓉会は、皆様方のご支援に支えられ今日を迎えております。人ひとりの想いのこもったご寄付は、社会福祉事業を推進していく上での大きな支えとなっております。何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

振込先

銀行名　**静岡銀行 吉原北支店**
預金種目　**普通預金**　口座番号　**0817169**
口座名義　**社会福祉法人芙蓉会　理事長　戸巻芙美夫**
シャカイフクシホウジンフヨウカイ
リジチョウ　トマキフミオ

編集後記

梅雨の時期に入りました。雨が続き気分が晴れない日がありますが、道の脇からきれいな紫陽花が咲いてくるのが楽しみですね。

また各地で地震が起きています。不安な毎日を過ごされている被災地の方々に一日でも早く明るい一日が来るよう願っています。そして私たちにできることを考え、支援していきましょう。